【論　　文】

Something の意味と機能*

松　倉　信　幸

1. はじめに

somethingは代名詞として後位修飾の形容詞を伴うのが一般的であるが、前位用法の形容詞を伴う例も見られる。somethingの代名詞用法に加えて、さらに代名詞の副詞的用法および名詞用法の機能も見られる。

これらの意味と機能について、主として英和辞典、あるいは必要に応じて和英・英英辞典に見る例文およびsomethingとのコロケーションから、機能的構文論の情報構造による分析および発話とそれが生起するコンテクストとの関係から見た婉曲表現のスタイルについても考察を試みる。

2. Somethingの品詞

2.1. 前位用法および後位用法の形容詞との共起

somethingを修飾する形容詞は通常では後位修飾の方が、前位修飾よりも頻度の面では多く見られる。下記の例ではsomethingは全て名詞で前位修飾の形容詞を伴い「形容詞＋名詞」として機能している例である。確かにこれら形容詞の前位修飾は後に置かれる例よりも少ない。下記の（6）の例にsomethingの複数形の例も見られる。

* 本稿を完成するにあたり、編集委員長の野村忠央先生および匿名の査読委員の先生に内容や書式について、とても有益なご助言を頂いた。深く感謝申し上げる。

『英語と文学、教育の視座』302-311

（1）Here’s a little something for you. (GC)
（2）She wore a filmy something that tied at the throat. (RH2)
（3）I felt the presence of an unknown something. (NE6)
（4）It is only an indeterminate something. (OED2)
（5）An unaccountable something seemed always to prevent their getting further. (*ibid*.)
（6）“Talking about large somethings,” he went on dreamingly, “I generally have a small something about now—about this time in the morning. ”
(Milne, *Winnie-the-Pooh*: 47)

上記の（1）では「ちょっとしたもの」、（2）は「薄いもの」、（3）は「得体の知れないもの」、（4）では「漠然としたもの」、そして（5）では「説明できないもの」という意味をsomethingの名詞句は表す。また、（6）の例にlargeとsmallの形容詞が前置されている。これらのsomethingに前置される形容詞の例のみでは判断できないが、（3）–（5）の前位修飾の形容詞は「明確に述べられない」という意味で、これらはいわば婉曲的表現スタイルと見られる。さらに連語のコロケーションの結びつきを見ると、これらの「明確ではない」意味を有する形容詞とsomethingの結びつきは特徴的と言えよう。

2.2. 代名詞の副詞的機能

代名詞のsomethingのなかには、下記の例に見られるようにlikeと共起して、「～と少し似ている」の意味を表す‘something like’の慣用表現として、somethingは副詞的に機能している代名詞の例がしばしば見られる。これらの‘something like’は‘set phrase’のため、いわば二語で一語のような意味を表している。

（7）She looks something like her mother. (AH4)
（8）His head is shaped something like a bullet. (GC)
（9）Often have I heard you something like blamed for these voluntary labours. (OED2)
（10）I saw something like a human figure in the dark. (GC)

また、「単独で用いられる」somethingの副詞的用例は、OED2では1900年代以前の1800年代までの用例が見られ、NE6には「叙述形容詞などを修飾して用いるのは（古）」とあり、古語になっている。三省堂のGCとNG2には、次の二つの例が両辞書ともに見られる。

（11）Bob was something stouter than his brother. (GC&NG2)
（12）It hurts something awful. (*ibid*.)

上記（11）のsomethingはsomewhatの意味で、（12）の方は「とても、かなり～」の意味である。これらの例からsomethingには軽微な「ちょっと～」と重大な「とても～」といった意味の違いが見られる。

3. Somethingと情報構造

英文は文頭に旧情報が位置し、その後ろに新情報が位置する。従って、「旧→新」という情報構造から英文が構成される。この「旧→新」という情報の展開とともに、新情報の中でも比較的重い要素が文末に位置する機能を「文末重点」（end-weight）と呼ぶ。例えば、文頭に新情報が位置する“A letter is on the desk.”という文は“The letter is on the desk.”という文よりも、文頭（A letter）の新情報は唐突で不自然であるため、There構文が用いられて、“There is a letter on the desk.”となる。この文中で‘a letter’は新情報として機能している。「新情報として文末に大切な要素を置くことによって、相手に緊張感（suspense）、意外性（unexpectedness）を与え効果的である。」と、村田（2005: 215）は述べている。

次の（13）の‘something wrong with’は慣用表現であり、（14）の‘something in [to] what S say’もthere構文にしばしば見られる。しかし、“Something is wrong with this machine.”は唐突にsomethingが文頭に位置して、「この機械はどこか悪い」の意味から、その前提として、「この機械は使えない」といったコンテクストが必要とされる。しかし、（13）の例では新情報を導く‘there is’が前置されているため、こうした前提は必ずしも必要とされない。

（13）There is something wrong with this machine. (GC)

（14）There is something in what he says. (CE)
（15）There was something mysterious about him. (GC)

上記の（15）では、新情報としてまずsomethingが置かれて、「何かはっきりしない事柄」を述べておいて、次にmysteriousでより詳しく「なぞめいた」と述べている。意味上、具体的な情報がsomethingの後ろに置かれる格好になる。例えば、Quirk *et al*. (1985: 379) には “something nice for dinner” の例が見られる。このことから、「something＋形容詞」という形容詞の後位修飾の方が、より重要な新情報の要素が後ろに位置する点で、「形容詞＋something」の形態と比べて機能上優位なことが窺える。

4. Somethingの意味特性

somethingの代名詞の定義にOA8では“a thing that is not known or mentioned by name”とあり、“We stopped for something to eat.”および“Give me something to do.”の例がある。一方で、同辞典にはinformal即ち、友人や親しい間柄で用いるくだけた表現で、“a thing that is thought to be important or worth taking notice of”と表記されている。この用例には次の例がある（例文中のかっこは原書のものをそのまま引用）。

（16）There’s something in (= some truth or some fact or opinion worth considering in) what he says. (OA8)
（17）It’s quite something (= a thing that you should feel happy about) to have a job at all these days. (*ibid*.)

名詞用法のsomethingが形容詞を伴わずに単独で用いられる例に、AH4には、“A remarkable or important thing or person” の語義がある。次の（18）–（20）の例には形容詞との共起はないが、remarkableおよびimportantの意味をsomethingが有する。さらに、次の（21）は ‘do something’ の ‘set phrase’ であるが、意味は上記と変わらないものの、reallyと共起して強調の度合いを一層強めた表現スタイルである。

（18）This is something (that) I had never expected. (Declerck 1991: 543)
（19）Something happened to her! (Givón 1993: 223)
（20）University education is something. （安藤 2005: 506）
（21）Reading that book really did something to me. (LE)

そもそもsomethingはOED2によると‘some + thing’とあり、形態論から見ると元来は2語の形態素からなり、something で「何かあるもの」という意味から、いわば不定代名詞的要素と名詞的要素が結びついたものと言えよう。従って、somethingは①「不確定なもの、よくわからないもの」と、②「重要な、注目に値するもの」の意味を備えていることがわかる。これらの意味の差異は2.2節で述べたが、somethingには軽微な「ちょっと～」と重大な「とても」といった意味上程度の違いが見られる。これらから、いわば対比的な意味素性がsomethingには備わっていると言えよう。

（22）Tom is something of a miser. (NG2)
（23）There is something of uncertainty in his story. (GC)
（24）During the last war he became something of a legend, working incredible hours and doing general and orthopaedic surgery, as well as obstetrics. (OED2)
（25）I found it something of a disappointment.
(= I found it rather disappointing.) (GN5)

上記の例は、通例肯定文で用いられる慣用句 ‘something of’ の例である。（22）と（23）では、この慣用句は「少し、ちょっとした」の意味である。一方で（24）と（25）では、「かなりの」という意味で、これらの点からも両者には同じ慣用句であるが、対比的な意味の特性が見られる。

5. 擬人化表現および比喩的表現

文頭に位置する “Something tells me” は文字通り「何かが私に語る」ということから、somethingは主語として擬人化されている。この慣用表現は「何となく～という気がする（思う）」の意味であるが、LT2によると「（心

の中で）何かが告げるとは要するに虫の知らせることである」とある。

（26）Something tells me we should get out of this cluster altogether and start from scratch somewhere else. (LT2)
（27）Something told me I would find you here. (GC)
（28）Something tells me that she's going to leave home. (LE)

上記の例から、これらの文中のsomethingの意味には次の二点の特性が見られる。①主語が人ではなくものであることから、何かが目的語の人に感覚的に知覚させる。②言葉による言い伝えではなく、いわば無意識的な感覚による判断から読み解ける。

（29）I've seen some fine players, but she's something else. (OA8)
（30）His new movie is something else. (GC)
（31）There are many fine singers in the world, but she is something else. (LE)
（32）This school has many brilliant students, but Mark's something else. He's really a genius. (CD)

上記の例に見られる 'something else' はOA8によると、informalとあり、"a person, a thing or an event that is much better than others of a similar type" という解説から、端的に言えば、「とびっきり素晴らしい人（もの）」の意味になる。従って、この成句には「何か別のもの」の意味もあることから、「同じタイプでありながら、別物に見紛うほどに素晴らしいもの」ととらえられる。つまり、「何か別のもの」から比喩的に「とびっきり素晴らしいもの（人）」への意味の転移が理解できる。

6. 婉曲的表現

6.1.「はっきり言わない」

'something wrong with' と形態および意味の類似する下記の（33）の例に見られる 'amiss' を用いる例がある。OED2のamissの語源を簡略表記すると、[a (on) + miss (failure)] となることから、amissはfailureすなわち「不

具合」の意味である。意味上amissとwrongの違いはあまりないと考えられるが、wrongは通常「どこか悪い」の意味である。一方のamissは「どこかおかしい」とお茶を濁して敢えて「はっきり言わない」表現スタイルである。

(33) There is something amiss with this latest plan. (GN5)
(34) Have I said something amiss? (CE)
(35) He noticed something amiss with the steering wheel. (CD)
(36) She sensed something was amiss and called the police. (OA8)
(37) I can't help feeling [shake off the feeling] that something is going seriously amiss in the classroom at the present time. (NJ5)

上記文中に見られるamissには(33)–(35)の後位用法、(36)の叙述用法があり、そして(37)では'set phrase'の'go amiss'「つまずく」が用いられている。これらの例により、同一文中におけるsomethingとamissには一定のコロケーションにおける緊密性が見られる。

6.2.「はっきり言えない」

次の(38)の例では、「推定」の意味のmustと共起して「彼が遅れるなんて、何かあったに違いない」の意味から、「はっきり言わない」というのではなく、情報量の少なさによって「はっきり言えない」事態を表している。また(39)も同様にseemと共起して、「何か気がかりなことがあるようだ」の意味で、情報量の少なさから慎重で、控えめな表現スタイルである。

(38) It's not like him to be late—something must have happened. (NJ5)
(39) She seems to have something on her mind. (RH2)
(40) He does something (or other) in the UN. (NC7)
(41) Oh I think they were hundred and something each maybe more.
(Biber *et al*. 1999: 112)

また、上記(40)は「国連で何かをしている」、つまり「国連で何をしているのか不明」である。同様に(41)でも具体的な人数が不明である。

(42) I have a hunch there's something going on between those two. (NJ5)
(43) Something's definitely going on between those two. (CD)
(44) Isn't there something (happening) between you and Tanaka? (NJ5)
(45) Haven't you and Tanaka got something going? (*ibid*.)

さらに、上記 (42)–(45) の文意には男女の性的な関係の意味合いがあり、ストレートにあからさまに述べることはいわば社会的なタブーとして、「はっきり言えない」婉曲的表現スタイルである。

6.3. 「はっきり言いたくない」

"Something come up" の 'set phrase' は「用事ができる」の意味である。下記 (46) と (47) は後位用法のurgentを伴い「急な用事ができた」の意味である。

(46) Something urgent came up and I had to go home. (NJ5)
(47) I'm afraid something urgent has come up. (OA8)
(48) Sorry, I can't come today. Something has come up. (LE)
(49) Something came up at work that delayed me. (NE6)
(50) If something comes up, call me right away. (RH2)

また、上記 (48)–(50) の例は修飾語句を伴わない単独でsomethingが用いられる例である。これらの文の談話分析の詳細は、「(急な) 用事ができた」という用件を述べるだけで、言外には暗黙の「理由をあまり詳しく言いたくない」という話者の心理が含意されている婉曲的表現スタイルである。

7. おわりに

頻度の面でsomethingを修飾する形容詞は後位修飾の方が、前位修飾よりも多く見られるのは自明であるが、この「something + 形容詞」の語順は、新情報としてまずsomethingが置かれ、「何かはっきりしない事柄」を述べておいて、次に後位形容詞によって、より具体的な情報を述べる形式であ

る。このことから、後位修飾の形容詞を伴う形態の方が、前位用法の形容詞を伴う形態に比べて、より重要な新情報の要素を後ろに置く英語の文末重点機能から見ると、somethingの機能上優位なことが窺える。

そもそもsomethingは形態論から見ると、‘some + thing’からなり、不定代名詞的要素と名詞的要素とが結合している。この点からもsomethingには①「不確定なもの、よくわからないもの」と、②「重要な、注目に値するもの」という意味がある。また、興味深い点としてsomethingには軽微なsomewhatの意味の③「ちょっと〜」と、重大な④「とても〜」といった程度の違いを表す例も見られる。これらから、いわば対比的な意味素性がsomethingには備わっていると言えよう。

さらに、擬人化表現としてsomethingが主語に置かれる “Something tells me” の文において、このsomethingの意味には次の二点の意味特性が見られる。①主語が人ではなくものであることから、何かが目的語の人に感覚的に知覚させる。②言葉による言い伝えではなく、いわば無意識的な感覚による判断から読み解ける。次に婉曲的なあいまいさを伴った敢えて「はっきり言わない」、情報量の少なさおよび社会的なタブーにより「はっきり言えない」、そして用件を「はっきり言いたくない」といった表現事例について考察を加えた。これらの事例から、somethingには「不明瞭で、明確でない」という意味が含意されていると言えよう。

参照文献

安藤貞雄（2005）『現代英文法講義』東京: 開拓社.

Biber, Douglas, Stig Johansson, Geoffrey Leech, Susan Conrad and Edward Finegan (1999) *Longman Grammar of Spoken and Written English*. Harlow, England: Pearson Education.

Declerck, Renaat (1991) *A Comprehensive Descriptive Grammar of English*. Tokyo: Kaitakusha.

Givón, Talmy (1993) *English Grammar: A Function-Based Introduction*. Amsterdam: John Benjamins.

村田勇三郎（2005）『現代英語の語彙的・構文的事象』東京: 開拓社.

Quirk, Randolph, Sidney Greenbaum, Geoffrey Leech and Jan Svartvik (1985) *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman.

例文出典

Milne, A. A. (2005) *Winnie-the-Pooh*. New York: Puffin Books.

辞典略語

AH4 = *The American Heritage Dictionary of the English Language* (4th ed., 2000) Boston: Houghton Mifflin.
CD =『口語英語大辞典』(1994) 東京: 三省堂.
CE =『旺文社新英和中辞典』(1999) 東京: 旺文社.
GC =『グランドコンサイス英和辞典』(2001) 東京: 三省堂.
GN5 =『ジーニアス英和辞典』(第5版, 2014) 東京: 大修館書店.
LE =『旺文社レクシス英和辞典』(2003) 東京: 旺文社.
LT2 =『新編英和翻訳表現辞典』(2002) 東京: 研究社.
NC7 =『新英和中辞典』(第7版, 2003) 東京: 研究社.
NE6 =『研究社新英和大辞典』(第6版, 2002) 東京: 研究社.
NG2 =『新グローバル英和辞典』(第2版, 2001) 東京: 三省堂.
NJ5 =『研究社新和英大辞典』(第5版, 2003) 東京: 研究社.
OA8 = *Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current Englis*h (8th ed., 2010) Oxford: Oxford University Press.
OED2 = *The Oxford English Dictionary* (2nd ed., 1989) Oxford: Clarendon Press.
RH2 =『小学館ランダムハウス英和大辞典』(第2版, 1994) 東京: 小学館.

（鈴鹿大学）
matsukura@m.suzuka-iu.ac.jp